

宮之城町の半世紀を振り返る

本町が誕生して50年の間に、様々な施策や出来事を経て成長・発展を続けたあゆみを紹介します。今回は、昭和60年〜平成6年までの主な出来事を振り返ります。

◇昭和60年2月

ミュージック時報塔を設置

うるわしい町づくりの一つとして、ミュージック時報塔が帝釈天頂上に設置された。時報塔の設置により、役場のサイレン吹鳴は、火災などの非常時に限って行うことになった。



ミュージック時報塔（帝釈天）

◇昭和60年5月

ミスかぐや姫が1日駅長

宮之城駅が開業60年を迎え、その記念行事として、鹿児島鉄道局の運輸部長からミスかぐや姫に1日駅長の辞令が交付された。

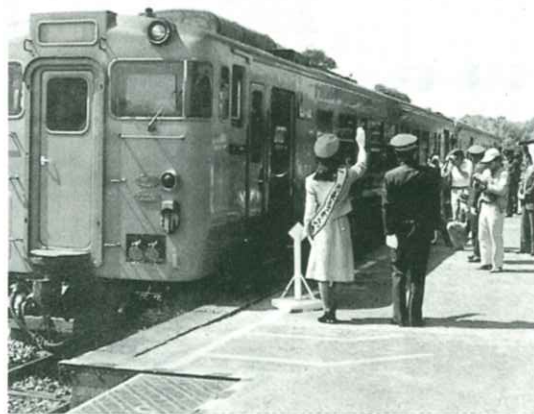
また、竹の入場券販売1万枚突破を記念し、1万枚目を購入した兵庫県の会社員にかぐや姫人形がプレゼントされた。

◇昭和61年8月

伝統工芸センターが完成

村おこし活動など住民の主體的活動を行う交流室、特産品を総合的に展示販売する常設展示場、町民が竹と親しむとともに修学旅行生など旅行者の竹細工教室を受け入れる多目的研修室などを備えた施設「宮之城伝統工芸センター」が総事業費約2億6千万円かけて完成した。

町民の交流と研修の場、地元特産品の振興と流通拡大の場として利用が望まれた。



1日駅長の合図で出発進行（鉄道記念館）

◇昭和61年11月

宮高ラグビー部県予選優勝

第66回全国高校ラグビー大会県予選で、宮之城高校ラグビー部が2連覇を目指す鹿児島工業を14対9で破り、5年ぶり4度目の優勝と花園へのキップを手に入れた。

◇昭和62年1月

国鉄宮之城線廃止

開設以来、町民の足として地域の振興や発展に大きな役割を果たしてきた国鉄宮之城線が昭和62年1月9日で廃止となった。

廃止を目前とした昭和61年末からは、臨時列車も運行され、思い出づくりの家族や鉄道ファンが多数詰めかけ大変な賑わいとなり、準備された竹製のキップもたちまち売り切れた。

1月9日は「宮之城線さよならフェスティバル」などの記念行事が開催され、駅前の広場は朝から名残を惜しむ人でいっぱいだった。

午後8時50分発上り川内行、午後9時41分発下り大口行最終列車は、ミスかぐや姫から花束贈呈のあと、つめかけた人々が見送る中、花火の打ち上げとともに出発し、国鉄宮之城線62年の歴史に幕を閉じた。

◇昭和62年8月

町立屋内温泉プールオープン

1年中泳げるプールとして、25m 9コースや幼児・低学年用プール、冷暖房完備の更衣室などを備えた屋内温泉プールがオープンした。

◇昭和63年4月

上宮保育園開設

定員が80人で、床暖房や日光を取り入れる明るい室内など最新設備を備えた上宮保育園が開設された。広い園庭には、ジャングルジムや砂場などの遊具も設置された。

上宮保育園の開設に伴い、白男川と平川の農山村保育所が3月で閉所された。



たくさんの人に見送られ出発する最終列車